



病害虫情報 1月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

平成30年1月5日

神奈川県農業共済組合

病害虫情報(第10号)1・2月予報

平成29年12月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 1・2月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1
【水稲、カンキツ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、キャベツ、ダイコン】
- II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 6

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成29年12月20日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 1・2月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
縞葉枯病 (ひこばえ、 水田内雑草、 水田周辺雑草)	—	—	◆ 媒介虫であるヒメトビウンカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ 越冬貝	—	—	◆ スクミリンゴガイ越冬貝生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①冬期に田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。貝を破砕し、越冬中の貝を寒気にさらす。耕うんは走行速度を遅くし、回転数を高くする。浅く細かく耕す。 ②越冬場所である用排水路の泥上げ、雑草除去、水田の不要な水の落水を行い、生息場所をなくす。地区全体で実施すると効果が高い。 ③休耕田も発生源になるので、できるだけ上記の対策を実施する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カンキツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) 等
カイガラムシ類	—	○	◆ 1月中旬までに防除する。ただし、果実が汚れやすいので、袋かけをしない場合は収穫後の春期に防除する。 ◆ カイガラムシ類は、冬期の防除が効果的である。 ◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるのでラベルの記載に従うこと。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (平成29年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
灰色かび病	—	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) フルピカフロアブル [前日, 4回] 2,000～3,000倍 (予・治) ベルコートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [前日, 3回] 1,000倍 等												
コナジラミ類 タバココナジラミ	—	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍												
アブラムシ類	—	○	チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 5,000倍												
アザミウマ類	—	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類: 2,000倍、 ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 等												
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底する。 ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(黄化病)		TSWV(黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(黄化病)															
TSWV(黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(茎えそ病)															

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: ポリオキシシンAL(1日)、コルト(セイヨウオオマルハナバチ3日後、クロマルハナバチ7日後)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合: 1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報 (平成29年度・第10号・1・2月) …… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] うどんこ病:1,000～2,000倍												
うどんこ病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [前日,3回] べと病:600～800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000～2,000倍 等												
			❖ 育苗期から薬剤散布を行うと効果が高い。												
アブラムシ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株												
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類	—	○	【育苗期:株元灌注】 モベントフロアブル [育苗期後半,1回:株元灌注] 500倍 アブラムシ類、コナジラミ類:25～50ml/株 アザミウマ類:50ml/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10～20Lに希釈/400株 【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:[植穴又は株元土壌混和]1～2g/株 コナジラミ類:[植穴土壌混和] 2g/株 【育苗期～定植後:散布】 ダントツ水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ: 2,000～4,000倍 アフターム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍 等												
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV(キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類	WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類														
BPYV(キュウリ黄化病)															
MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類														
WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))															
			❖ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。												
			❖ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- ◎ CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報 (平成29年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日
うどんこ病	並	○	(予) タフパール [発病前～発病初期, -] うどんこ病:2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日, 3回] 2,000～3,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 4回] 灰色かび病:1,500倍 (治) カリグリーン [前日, -] 灰色かび病:800倍、うどんこ病:800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病:300～600倍 等
アブラムシ類	やや多	○	ウララDF [前日, 2回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	やや多	○	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍
タバコ コナジラミ	並	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等
アザミウマ類	並	○	
ハダニ類	やや多	○	マイトコーネフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

タフパールと上記掲載剤の散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ ボトキラー、サンクリスタル、ウララ、バリアード、マッチ、マイトコーネ:混用事例あり
フルピカ、ロブラール、カリグリーン:3日以上

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (平成29年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【キャベツ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
菌核病	並	○	(予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) アミスター20フロアブル [7日,4回] 菌核病:2,000倍
灰色かび病	並	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [14日,3回] 菌核病:2,000~3,000倍、灰色かび病:3,000倍 等 ❖ 結球後の防除効果が期待できないので、春キャベツへの感染を防ぐため、発病株は見つけ次第除去、処分する。
黒腐病	やや多	○	(予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) バリダシン液剤5 [7日,5回] 800倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒斑細菌病	多	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,4回] 500倍 等 ❖ Zボルドー:薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年度・第10号・1・2月)

神奈川県農業技術センター

II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 1・2月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部12月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

1月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう

2月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1月	気 温	40%	30%	30%
	降 水 量	40%	30%	30%
2月	気 温	30%	40%	30%
	降 水 量	40%	30%	30%

(2) 1・2月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	-	並	1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年よりやや少ない。(－) 3) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや多 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや多く(＋)、タバココナジラミの発生が平年並(±)。 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年度・第10号・1・2月)

神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
早春 キャベツ	腐敗病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(+)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	黒腐病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
冬ダイコン	黒斑細菌病	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)
	ナモグリバエ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への成虫誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 1月の気温は低く、降水量は少ない予報。2月の気温は平年並、降水量は少ない予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因